

《問い合わせ先》

第十一管区海上保安本部
海洋情報監理課長 井田 壮太
098-867-0118 (内線 2510)



第十一管区海上保安本部

令和6年8月15日

『水路記念日』パネル展を開催します

～「むかし沖縄」を昔の海図と写真で振り返る～

県立図書館や沖縄美ら海水族館にご協力いただき、「むかし沖縄」を振り返る『水路記念日』パネル展を開催します。

1 概要

古くは遣隋使の時代から、海洋国日本にとって、海上輸送は非常に大きな役割を担ってきました。

現代においても、沖縄県の物流の99%が海上輸送です。

この海上輸送の安全を陰で密かに支えているのが海図であり、海図を作製している我が国唯一の機関が海上保安庁海洋情報部であることは、あまり知られておりません。

そこで、水路記念日の機会を通じ、より多くの県民の皆様にも、海図や海上保安庁海洋情報部の業務への理解を深めていただきたく、昔の海図と当時の写真により、戦後から本土復帰直後の沖縄（「むかし沖縄」）を振り返るパネル展を開催します。

2 開催場所・期間

① 沖縄県立図書館 3階展示コーナー

令和6年8月28日（水）～9月23日（月・祝）

② 沖縄美ら海水族館 総合休憩所

令和6年9月2日（月）～9月30日（月）

※9/6(金)と9/12(木)には当庁職員による着ぐるみイベントを予定

(別途「取材申込み」のための広報を予定)

3 展示パネルの概要

① 海図作製業務のはじまり

② うちな～（沖縄）の海図

③ 県内古海図と当時の写真による「むかし沖縄」の振り返り

④ 令和6年能登半島地震 ～海では何が起きたか？～

※1 水路記念日とは

測量から海図作製までを一貫して行う水路業務（現在の海上保安庁海洋情報部所管業務の基礎）を使命とする兵部（ひょうぶ）省海軍部水路局（現在の海上保安庁海洋情報部の前身）が、明治4年（1871年）9月12日に創設されたことから、9月12日が『水路記念日』となり、今年で153周年を迎えます。

ちなみに、初代水路局長は、勝海舟らとともに西洋の進んだ航海術や測量術を学んだ柳樽悦（やなぎ ならよし）氏です。なお、樽悦氏のご子息は、「芭蕉布物語」などの琉球の文化や伝統工藝に関する書籍の著者で、民藝運動の父としても知られる柳宗悦（むねよし）氏です。

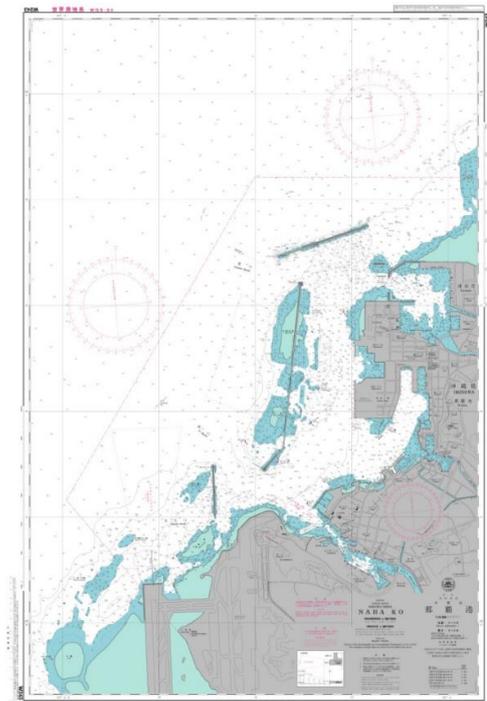


柳樽悦【初代水路局長】

※2 海図とは

海図とは、船舶交通の安全や効率的な運航に不可欠な水深をはじめ、沈船・魚礁といった障害物や灯台等の航路標識などの情報が掲載された、船舶交通に特化した主題図であり、海上保安庁が刊行しています。

海図は、法令により、一部の船舶を除く全ての船舶に備置しておくことが義務付けられています。



海図 W243「那覇港」